

サステナブルファイナンス有識者会議 ESG投資に関する 個人投資家インタビューからの示唆

阿部圭司・佐藤敦子・田戸岡好香・水口剛・宮田庸の共同研究の中から得た気づきの共有

高崎経済大学 学長
水口 剛



報告の背景

- 現在、共同研究者とともに、個人のサステナブル投資選好を測定する心理尺度を開発する研究を行っている。
- その研究の一環として、10名の個人投資家に対するインタビューを行った。その過程で、有識者会議の議論にも参考になるとされる示唆がいくつか得られた。
- 今回の報告は、研究の成果や途中経過などの報告ではなく、インタビューの過程で得た、ESG投資に対する個人投資家の姿勢という点で、有識者会議の議論に資する観察結果を共有するもの。

【インタビューの概要】

インタビューの対象

- (1) 投資に関する自主勉強会である「きんゆう女子」のメンバー、6人
性別、女性。20代1人、30代4人、40代1人。
- (2) アンケート調査プラットフォームを通じて募集した対象者、4人
性別、男性。20代半ば、30代前半、40代後半、50代前半。

インタビュー時期：2025年3月

インタビュー時間：1回60分程度

「個人投資家」の解像度を上げる

投資を真面目に勉強した個人投資家は2つの方向に向かう

(1) 投資先をきちんと分析する個別株投資

⇒ 「応援したい企業」のような心理の傾向は生まれる。ESGと親和性はある。

しかし、スケールしないし、可視化されない。

市場でよほどマジョリティにならないければ、インパクトを生まない。

(2) 長期・分散を合理的に追求するインデックス投信

⇒ 選択の基準は手数料が安いこと

運用機関の違い・名前は意識されていない。

アクティブ運用のESG投資では、売れない。

アクティブ運用のESG投資信託を買う人の心理

⇒ 多様なリターン追求商品のうちの1つ。ESGも、流れが来るかもしれない。1つくらい、持っておいてもよい。

⇒ 買う側の投資戦略、売る側の商品戦略としては理解できるが、社会の持続可能性に貢献するのか。

インデックス投信を提供する運用機関も、スチュワードシップ活動をしている。その違いが可視化されていない。GPIFの「エンゲージメント強化型」のような発想を、個人投資家向けの投信でも訴求してはどうか。

こういうことを考えたとき、6月の報告書で、誰に対してメッセージを出すのか
⇒ 個人投資家か、運用機関か？

【改めて問う】

そもそもサステナブルファイナンスとは、何なのか。個人投資家が広くすることか、機関投資家がすることなのか。そして何のためにサステナブルファイナンスを推進するのか。

⇒ 社会・経済基盤を守り、社会を持続可能にする合理的な金融市場を作ること。

そのために、有識者会議は何を目指すのか

「どのような」サステナブルファイナンスを推進しようとするのか